

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	短期入所特別拡大事業	会計	一般会計	事業No.	211	施策順No.	35-022
		事業種別	政策・その他	予算科目	3-1-4-14-3		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	介護高齢課		
施策	35 高齢者福祉の推進			事業期間	開始	12	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	1 要介護認定者のうち、認知症状のある在宅の独居又は高齢者のみの世帯の者で、冬期間在宅で生活することが困難である者。 2 在宅の、養護者から虐待を受けている高齢者。(21年新)						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	対象をどう変えるか	介護支援専門員からの相談により冬期間の在宅生活が困難と思われる者		5	5	5	5		
	意図	1 冬期間の認知性高齢者の生命保護と要介護状態の著しい悪化の防止。また、機能訓練等の実施により機能の向上を目指す。 2 当面の生命、身体に及ぼされる危害を回避する。(21年新)							
	対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	サービスの提供を受けた高齢者数/冬期間の在宅生活が困難と思われる者*100%		10	20	20	60	40	100	B
	一時保護した高齢者数/一時保護が必要な高齢者数×100(%)				0	100	100	100	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価あり】		相談件数が少なく、利用者も少なかった。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	1 認知性独居高齢者、高齢者世帯の者で冬期間在宅で生活することが著しく困難であったり、要介護状態が著しく悪化するおそれがあり、かつ福祉施設等の利用ができない場合、冬期間の生活の場を確保し入所させる。 2 養護者から虐待を受けていると判断される高齢者の内、一時的に養護者から保護・分離することが適当と判断したものを、養護老人ホーム等の施設へ一時保護する。緊急時に対応できる体制の整備を、施設と調整していく。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 介護保険外短期入所特別拡大事業 冬期間の在宅生活困難者の生命の保護と要介護状態の悪化を防ぎ、機能訓練等により機能の向上を目指す。 2 高齢者虐待対応短期入所 被虐待高齢者を一時的に保護し、当面する生命・身体への危害等を回避する。	1 相談件数 利用者数 利用日数 2 相談件数 保護人数 利用日数	7人 2人 198日 14件 1人 5日
23年度実施計画	1 介護保険外短期入所特別拡大事業 冬期間の在宅生活困難者の生命の保護と要介護状態の悪化を防ぎ、機能訓練等により機能の向上を目指す。 2 高齢者虐待対応短期入所 被虐待高齢者を一時的に保護し、当面する生命・身体への危害等を回避する。	1 相談件数 利用者数 利用日数 2 相談件数 保護人数 利用日数	7人 3人 270日 10件 3人 63日

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		817	115	817		
計(A)		817	115	817		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			115			

4 事業に対する市民や議会の意見

認知性の独居高齢者に対する施策の要望は大きい。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	施策の成果指標又はムトス指標
	安心していきいき暮らせる	安心して暮らせている高齢者の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	冬場の利用に向けて10月頃からケアマネに対してサービス利用に関しての説明を行い、相談を受けた。
	後期に向けた課題	ケアマネの方々へサービスの説明を浸透させ必要な方への利用ができるようにすすめていく
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	ケアマネや地域包括支援センター等関係職種との連携を密にした情報交換により、生命・身体に危険が生じる恐れのある高齢者を保護することができた。
	後期に向けた課題	緊急的に保護を必要とする高齢者を把握するため、関係機関等との情報交換の継続。
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	
	後期に向けた課題	
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	認知症高齢者や被虐待高齢者の保護は、利用者数の増減に関わらず継続して実施する必要がある。
	後期に向けた課題	関係機関等との情報交換の継続と対象者の把握。
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	①地域包括支援センター、事業所のケアマネージャー等 ②市は情報交換、情報の共有化等によって得られた高齢者情報を基に、該当者の対応が速やかに行われるよう努める。
	後期に向けた課題	
全体を通じて	4年間の振り返り	ショートステイや小規模多機能の増設により利用者は少なかった。2名の方は冬期間状態が悪化せず生活できた。
	後期に向けた課題	ケアマネとの連携を深めて気軽に相談にのってもら。又月に1回の事業者連絡会などで説明し、さらに理解を深めてもらう。又、協力施設の拡大にも力を入れていく。

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------